

町指定文化財(史跡)

「孫根城跡」

指定年月日／昭和四八年一月二〇日  
所在地／城里町孫根  
管理・所有者／個人

孫根城は、先月号で紹介した大山城の支城として、一五世紀前半に大山二代当主義道が築城したものです。義道は、長男義兼に孫根城を守らせ、次男義次に大山城を守らせたとされています。

築城から間もない享徳元(一四五二)年には、佐竹氏一三代当主義俊・義治父子が、延徳二(一四九〇)年には一五代当主義舜が、それぞれ内紛により太田城を追われて孫根城に身を寄せ、紛争収束後に太田城に復帰しています。孫根城は、佐竹氏の歴史を語る上でも重要な城であると言えます。

町指定文化財「孫根城跡」は、大山城の西方約一・五キロメートルに位置しています。城の中心部は、「御城」と呼ばれる地域で、北及び北東側は比高約二〇メートルの急峻な崖、南東側は谷、南西側は中



▲孫根城の中心部

心部を囲むように築かれた巨大な土塁で守られています。かつては土塁の外側に堀も存在しましたが、現在は一部を残し埋没しています。さらに、「御城」の周辺には、土塁や堀などの複数の城郭遺構が残し、「戸の内」「門場」「入坪」「宿」など城に関係する地名が確認できます。これらのことから、当時の孫根城は一辺五〇〇メートルを超える大型の城郭であったものと推測されます。

※佐竹氏の代数については異説あります。解説文／町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局

☎029-288-3135

俳句

止まり木に足踏み替へて鵜高音  
鯉淵 寿美恵  
袋田の土産屋銀杏買ひにけり  
今瀬 多代美  
祝ひ餅川にも上げて照葉かな  
森 静江  
峠道の野仏地藏紅葉晴  
綿引 英子  
少しだけ緑残して紅葉散る  
中野 千賀子  
夕野分空気きりりと入替へて  
飯村 昭子

オカリナの森秋蝶の深呼吸  
竹内 幸子  
冬かもめ広き川幅席巻す  
瀬谷 博子  
晩秋の山煙らせて登り窯  
田口 勝元  
デイ慰問幼児の太鼓よく揃う  
岩下 金司  
爽籟や太く下がりて菜羹の粒  
仲田 まちゑ  
温泉の窓越しの山眠りけり  
寺門 孝子

川柳

共白髪誓った俺は禿げ頭  
富田 多蔵  
実のる秋二段から三段へ進む腹  
車田 綾子  
焼き芋屋〇〇を焼かずに〇〇を焼く  
飯村 孝一  
卒寿きて次は白寿と欲を出し  
川原 清



文芸しろさと

短歌

山百合の次々咲きて美しき  
今日を最後の花散りにけり  
所 美恵子  
台風の後雨はげしくもようやく  
く止みて朝の窓開け放つ  
山形 式妙  
太陽光パネルの並みある風景に  
時の流れを想ふ昨今  
杉山 みちこ  
冴えわたる夜空仰ぎて疲れたる  
吾が身体いとしむ十五夜の月  
大森 久子  
とおき日に父は召されて征き  
し夜の星の光は今もかわらず  
青柳 京子

燃えつきし蚊取線香の白々と  
終りしものの淋しきかたち  
渡辺 千紗子  
雨の夜金木犀の花ほの匂  
いて暗き心なごます  
枝 不美  
我が家の堀跡に立てる大銀  
杏黄葉を落して大空に映ゆ  
島 愛子  
何回も大型台風耐え抜いて  
実りし柿を懸栗啄む  
信田 育子

なにげない朝の一杯心込め  
夫の座るを待ってお茶だす  
菌部 光子  
今日も又椅子に寄りそえ空眺  
め待つてはくれぬ歳月を追う  
富田 欽子  
老いてみてひとしお思う昔  
日の神納め父掃除する母  
矢次 洋平

